

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	「命薬(めちぐすい)の里」親(うふ)やんばる国頭の資源活用に係る方策検討調査		
(2) 実施団体名	やんばる国頭の森を守り活かす連絡協議会	(3) 対象地域	沖縄県・国頭村内全域
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	

(6)実施した取組の内容	取組①	「命薬の里」環境保全型観光資源活用に係る方策検討調査	
	実施主体	国頭ツーリズム協会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画 ・実施内容：A.環境保全型観光モニターツアー・資源等調査(利用者数自動カウント・観光動向調査)、B.門づくり講座(村の中心である辺土名区のまちづくりワークショップによる「まちづくり構想」の策定、C.コミュニティバス運行実験(観光客・団体客の送迎、都市部への農林漁産物運送) ・実施場所：A.村内の観光・宿泊施設、主要道路等、B: 辺土名区、C: 村内観光・宿泊施設及び那覇市街往復 ・実施時期：平成20年10月～平成21年3月 ・取組の目的：自然資源を活用した環境型観光を推進することを目的とし、村の観光施設整備状況、利用状況及び人材の現状を把握した上で、今後の課題を抽出する。	実際の取組内容及びその結果 ・実施内容：A.環境保全型観光モニターツアー・資源等調査(与那覇岳及びタナガークムイの利用者数自動カウント・観光動向調査)、B.門づくり講座(2回)、C.コミュニティバス運行実験 ・実施場所：A.C.村内の観光・宿泊施設、主要道路等、B: 辺土名区 ・実施時期：A.モニターツアー：平成21年2月、観光動向現地調査：平成20年11月23-26日(3日間、10地点)、B.平成20年12月6日、平成21年3月7日、C.平成20年11月～平成21年3月(5か月) ・取組の結果：A.モニターツアーでは、旅行者・企業・学校関係・老人会・福祉関係者に対して独自のツアーを実施する。営業段階時点では特に企業の良い反応が得られ、アンケートによる顧客ニーズの把握及び運営上の課題抽出が期待される。資源調査では現状の観光動向を調査解析し、今後必要な設備・施設の整理を行う。B.門づくり講座では、辺土名区の村の中核及び観光客にとっての村の玄関口としての役割を再確認し、改善点とその実現手法を抽出する。C.コミュニティバス運行実験では、運行モデルの実施により、観光客及び村民の現状のニーズ、及び実現可能な運用のための課題を把握することが期待される。
	取組②	「命薬の森」森林資源活用に係る方策検討調査	
	実施主体	村役場	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画 ・実施内容：A.森林セラピーを活用した「命薬の森」づくりの体制整備(普及啓発シンポジウム・認定プログラム作成委員会の開催)、B.林業者を中心とした新たな施業の創出のための実証実験(盗掘防止パトロール、移入動植物駆除、ツリーハウス製作技術者養成)、C.国頭村における林業の現状評価検討調査 ・実施場所：国頭村全域 ・実施時期：平成20年10月～平成21年3月 ・取組の目的：森林資源の複合的活用方針の検討、施業者による森林管理体制の整備を目的とする。	実際の取組内容及びその結果 ・実施内容：A.森林セラピーを活用した「命薬の森」づくりの体制整備(普及啓発シンポジウム開催・認定プログラム作成委員による先進地視察)、B.林業者を中心とした新たな施業の創出のための実証実験(環境省との連携によるマンガース駆除及び移入植物駆除活動、ツリーハウス製作技術者養成)、C.国頭村における林業の現状評価検討調査(施業地台帳の整理・解析、育林事業評価のための調査計画の策定) ・実施場所：A.普及啓発等：国頭村森林公園、視察：長野県信濃町、B.駆除：国頭村全域、ツリーハウス：学びの森、森林公園、C.国頭村全域 ・実施時期：A.シンポジウム：平成21年3月、視察：平成20年10月23-25日、B.C.平成20年10月～平成21年3月 ・取組の結果：A.シンポジウム・先進地視察により森林セラピーの認知度は高まったが、ガイドとしての人材育成・運用の課題が残る。B.野生生物管理の技術を習得し、意識は向上したものの、施業との連携に課題が残る。C.返還以降の施業台帳を整理し、育林事業評価のための毎木調査計画を策定する。現状の育林手法の評価事例が少なく、今後の育林形態の検討資料として有効と考える。
	取組③	「命薬の里」農林漁産物資源活用に係る方策検討調査	
	実施主体	商工会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画 ・実施内容：A.特産品開発の基礎調査(薬草等成分分析、都市部アンテナショップでの販売)、B.いわれ食発掘(いわれ食調査、レシピ集作成、提供体制づくり)、C.宿泊関係者おもてなし講座、D.農林漁産物・観光商情情報発信コンテンツ等の作成 ・実施場所：国頭村全域 ・実施時期：平成20年10月～平成21年3月 ・取組の目的：特産品開発を目的としたいわれ食や薬草に関する基礎調査、宿泊施設の質の向上を目的とした講座、及び情報発信環境の向上を目的としたポスター、HPの作成により、を来訪者の増加、及び第一～三次産業の連携強化により、産業全体の再生を図る。	実際の取組内容及びその結果 ・実施内容：A.特産品開発の基礎調査(薬草等成分分析、都市部アンテナショップでの販売)、B.いわれ食発掘(いわれ食・薬草聞き取り調査、小冊子作成)、C.宿と食講座(4講座) ・実施場所：A.アンテナショップ：東京都有楽町わしたショップ、B.国頭村全域、C.商工会 ・実施時期：A.成分分析：平成21年1～3月、アンテナショップ：平成21年2月3-4日(2日間)、B.平成20年11月～平成21年3月、C.平成20年12月12日、平成21年1月21日 ・取組の結果：A.特産品開発基礎調査では、既存の特産品20点の出品を予定している。出品段階で、食品表示等により販売が困難な品物も明確化し、販売までの一連の技術的課題が抽出できた。B.昔使っていた食材や調味料を把握することで、失われつつある知恵や民俗史の収集ができたことに加え、新たな特産品抽出のための情報・ヒントを得ることが期待される。また、聞き取り調査を行った女性グループの意識・技術向上につながった。C.宿と食講座では、経営者による施設と食に関する現状及びアピールポイントを認識し、表現することで、意識・質の向上につながると期待される。

(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点			
	<p>・やんばる国頭の森を守り活かす連絡協議会 村内のほぼすべての公的な10の団体のうち、主に下記3団体で、それぞれの役割を分担した。 ・村役場企画商工観光課・経済課(主担当:取組①②③):事業の事務局として関係者間の調整・広報、モニターツアーの企画、コミュニティバスの運行、森林セラピー推進体制整備 ・NPO法人国頭ツーリズム協会(主担当:取組①②③):各取り組みの管理、方策検討・効果検証、観光動向調査、講座関係の運営 ・国頭村森林組合(主担当:取組②):森林施業の実証実験、ツリーハウスピルダ― ・国頭村商工会(主担当:取組③):特産品関連基礎調査、アンテナショップ直売</p>		<p>取組①:モニターツアーでは、村役場主導のもと、NPO国頭ツーリズム協会、商工会、宿泊施設等多くの関係者の連携がみられた。コミュニティバスに関しては、村役場が主体となって運営したが、広報不足、及び不況による団体客のキャンセルへの迅速な対応がとれなかったことが反省点といえる。門づくり講座では、村役場とNPO国頭ツーリズム協会、商工会の連携により商工業者を含む村民の参加により、多様な提案を組み込んだまちづくり計画の策定が期待される。 取組②:村役場が主導した森林セラピー関係では、商工会の呼びかけにより、多くの民宿経営者等の参加がみられ、新たな経営ビジョンの創出につながった。移入種駆除活動では、環境省の協力により、森林施業者の意識改革につながったものの、施業と駆除活動の両立に関する課題が明確になった。 取組③:特産品基礎調査では、これまで事業に関わりの少なかった村内の女性グループが主体的に調査・とりまとめに参加したことによる成果の充実がみられた。また、宿食講座においては村役場と商工会による広報の徹底によりほとんどの宿泊関係者が参加し、計画以上の満足度が得られた。</p>			
(8)取組により得られた成果	○成果1→	モニターツアー参加者の満足度				
		H19	H20(当初予定していた目標)			
		—	2/3以上の満足度			
		H20(実際に得られた成果)				
		<ul style="list-style-type: none"> ・3/14~15、3/21~22に計画しているツアー対象団体から積極的な参加意欲が見られる。 ・村内受入れ団体から県内企業のツアー誘致が提案され、交流人口増加にける意気込みが高まった。 ・3社の企業が福利厚生施設を大型ホテルなどから提案ツアーへシフトした。新規顧客の広がりが期待される。 ・以上の成果を踏まえると、ツアー参加者2/3以上の満足度は十分得られるものと期待できる。 				
	○成果2→	森林セラピー体制づくりやシンポジウムに参加した村民の数				
		H19	H20(当初予定していた目標)			
		150人	250人			
		H20(実際に得られた成果)				
		<ul style="list-style-type: none"> ・セラピー講座(3回・26人)、宿食講座(2回・16人)、セラピーツアー(3回・41人)、先進地視察(11人)森林浴ダイケア(10回・150人)などの取組みに244人の参加があった。これから予定するモニターツアー(2回)、シンポジウム(3/15予定)を含めると目標を上回る300名の達成は可能である。 ・宿・食講座において村内12宿中9宿の参加が得られた。各宿の取組みや現状情報の共有により、自然発生的なネットワークが形成され受入れ体制の強化につながった。 ・講座受講者アンケートでは、全員が満足し、ステップアップ講座を望み、やる気の向上がみられた。 ・森林セラピーに係る各活動で女性の参加比率が60%以上と高く、村全体への波及が期待できる。 				
○成果3→	発掘したいわれ食の数					
	H19	H20(当初予定していた目標)				
	—	10種類				
	H20(実際に得られた成果)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・村内5集落の80~90歳代女性からの聞き取り調査結果より、10種類のいわれ食を抽出し、調理実践を行ったものを小冊子としてまとめている。 ・聞き取りを村内女性グループが担ったことにより、世代間の交流ができ、生活レベルの交流も生まれた。 ・いわれ食や薬草調査から得られた伝統食材・料理から特産品につなげることで、物語性をもつ特産品の開発が期待される。 ・小冊子は料理講習会などで活用し、いわれ食を地域特産品につなげるツールとしての利用が可能となった。 					

<p>(9) 今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・20年度の実証実験は、個別の問題解決型の実証実験が多く、問題解決のための課題整理は概ね終了したといえる。21年度以降は、第一次～第三次産業の連携づくりを主とする中で、相乗効果・波及効果の高い取組を計画・実施していく必要がある。 ・特に環境保全型観光の方策検討調査から、実際に携わるガイドの確保、多様なツアーメニューづくり、コーディネート窓口・現地の情報発信センターの整備等、運営体制の整備が急務であることが明確になった。様々な観光事業を中軸として、産業全体のボトムアップを図ることが、国頭村の地域特性を勘案した上で、有効な方策と考える。 ・20年度に実施した特産品基礎調査等に係った村民のやる気の向上を受け、21年度以降は、特産品を複数抽出した上で、マイクロ・マクロの両レベルで情報を収集・解析し、物語性や多様な価値をもつ特産品を丁寧に絞り込み、販売・宣伝までの体制を可能な限り具体的に策定する必要があり、専門家の指導を中心とした当事者によるビジネスモデルの策定が効果的と考える。 ・沖縄県における国頭村の地域的特性を勘案すると、新たな森林施業の創出が不可欠であり、20年度に取り組んだ移入種駆除事業は、野生生物管理の一環として一定の成果を得たが、持続性の観点からの課題が明確になった。21年度以降は、研究者との協働による国頭村の自然環境に適した環境保全型林業、及び有用(薬用)樹木の育成手法の検討が必要と考える。 ・観光情報整理の必要性を感じ、独自で3月末までに収集・整理した情報を21年度以降効果的に発信するコンテンツの整備が必要と考える。
------------------------------------	---

	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>1.モニターツアーを足がかりとした環境保全型観光の営業とツアーの実施</p>	<p>1.「命薬(ぬちぐすい)ガイドツアー」(国頭まるごとセラピーツアー)の実施体制の確立(平成21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:村役場、NPO法人国頭ツーリズム協会、漁協・農協・森林組合の連携 ・エコツアー、森林セラピーツアー、集落散策ツアー、海ツアー、農林漁業体験ツアーを統合し、地元住民を中心としたガイド(命薬ガイド)の発掘・育成、ツアーコース、運営体制を整備する。 ・命薬ガイド及び命薬の宿の登録・育成制度、及び運営計画を策定し、運用を開始する。 ・情報発信基地としての辺土名区大通りの魅力づくり(道づくり、川づくり、インフォメーションセンター)を住民参加型で計画・実践する。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額800万円)]</p>
	<p>2.森林セラピスト認定講座の実施と認定されたセラピストによる森林セラピーの実証実験</p>	<p>2.環境保全型林業の提案(平成21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:国頭村森林組合、村役場、NPO法人国頭ツーリズム協会の連携 ・林業現状評価調査計画をもとに、施業形態(国頭村に適した環境保全型林業、及び有用(薬用)樹木の育成手法)を検討・提案する。検討に際しては、琉球大学農学部与那演習林及び森林総合研究所の研究者に助言・協力を依頼する。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)]</p>
	<p>4.付加価値の高い国頭ブランドの特産品開発</p>	<p>3.環境保全型産業・ビジネスモデルの確立(平成21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:村役場、商工会、漁協・農協・森林組合の連携 ・専門家による農林漁業・観光業の個人・団体レベルにおける事業設計・実践のための講座(計5回)を実施し、個人レベルからの意識向上・実践力の向上を図る。 ・今年度実施したいわれ食・薬草調査及び村内の他事業で検討された特産品をもとに、主要特産品を10種抽出し、生産・加工・販売体制の整備を行う。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1500万円)]</p>
		<p>4.情報発信コンテンツ整備(平成21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:村役場、商工会の連携 ・20年度以降の事業をふまえ、より効果的な情報発信コンテンツの整備を総合的に行う。 ・経営者等のための情報発信講座(2回)を実施し、村全体の情報発信力の向上につなげる。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)]</p>

◆主な実施取組の内容◆

取組み① 「命薬の里」環境保全型観光資源活用に係わる方策検討調査
 実施主体: NPO法人国頭ツーリズム協会
 実施取組内容・結果
 内容: A.環境保全型観光モニターツアー・資源等調査(利用者数自動カウント・観光動向調査)、B.門づくり講座(2回)、C.コミュニティバス運行実験
 結果: モニターツアー満足度: 2/3以上

B.門づくり講座






A.利用者自動カウンター(左) 観光動向調査地点(右)

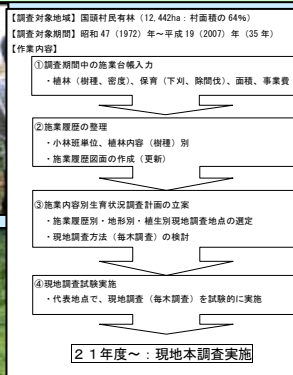


取組② 「命薬の森」資源に係わる方策検討調査
 実施主体: 国頭村役場
 実施取組内容・結果
 内容: A.森林セラピー体制整備(シンポジウム・先進地視察)、B.新たな施業の創出(移入種駆除、ツリーハウス製作技術者養成)、C.林業の現状評価検討調査
 結果: 参加した村民の数: 300人


A.森林セラピー先進地視察



C. 林業の現状評価検討調査計画策定フロー図



B.移入植物駆除実験



取組③ 「命薬の里」農林漁産物活用に係わる方策検討調査
 実施主体: 商工会
 実施取組内容・結果
 内容: A.特産品開発の基礎調査(成分分析、アンテナショップ販売)、B.いわれ食発掘(いわれ食・薬草調査、小冊子作成)、C.宿と食講座(4講座)
 結果: 開発した特産品の数: 10種類

A.アンテナショップ(東京)販売品リスト一覧

No.	商品名	メーカー名
1	手作りママ(徳島犬)	
2	手作りママ(徳島小)	手作りママ加工用
3	タンガンジヤム	
4	スモジヤム	
5	あくみどり草	南草業組合
6	あくみどり茶(バツ)特茶	桃グループ
7	くみずちん茶	長命茶業社
8	くみずちん茶(バツ)	長命茶業社
9	ニッケイ茶	宮城村森林組合
10	島唐辛子	桃グループ
11	薬膳味噌	国頭村観光物産
12	泡盛樽	
13	木酢	炭やき村
14	本割(ブレンド)	
15	ババ(乾煎)	やんばるホテル
16	レモンダラ(スイトラ)	長命茶業社
17	タンガン(香辛)	大城農園
18	ゴーヤ(香辛)	津谷農園
19	パッションフルーツ(香辛)	新田農園
20	シークワーサー(香辛)	宮城農園

B.いわれ食調査



C.宿と食講座



◆取組実施による成果・今後の展開◆

- 「命薬(めちぐすい)ガイドツアー」(国頭まるごとセラピーツアー)の実施体制の確立(平成21年度～: 村役場、NPO法人国頭ツーリズム協会、漁協・農協・森林組合の連携)
 - ・エコツアー、森林セラピー、集落散策、海ツア、農林漁業体験を統合し、地元住民を中心としたガイド(命薬ガイド)の発掘・育成、ツアーコース、運営体制を整備する。
 - ・情報発信基地としての辺土名区大通りの魅力づくり(道づくり、川づくり、インフォメーションセンター)を住民参加型で計画・実践する。
- 環境保全型林業の提案(平成21年度～)
 - 1.環境保全型林業の提案(平成21年度～: 国頭村森林組合、村役場、NPO法人国頭ツーリズム協会の連携)
 - ・調査計画をもとに、施業形態(国頭村に適した環境保全型林業、及び有用(薬用)樹木の育成手法)を検討・提案する。
- 環境保全型産業・ビジネスモデルの確立(平成21年度～: 村役場、商工会、漁協・農協・森林組合の連携)
 - ・専門家による農林漁業・観光業の個人・団体レベルにおける事業設計・実践のための講座(計5回)を実施し、個人レベルからの意識向上・実践力の向上を図る。
 - ・今年度実施したいわれ食・薬草調査及び村内の他事業で検討された特産品をもとに、主要特産品を10種抽出し、生産・加工・販売体制の整備を行う。
- 情報発信コンテンツ整備(平成21年度: 村役場、商工会の連携)
 - ・20年度以降の事業をふまえ、より効果的な情報発信コンテンツの整備を総合的に行う。
 - ・経営者等のための情報発信講座(2回)を実施し、村全体の情報発信力の向上につなげる。